

2018.2/24 三浦半島・後北条氏ゆかりの城址

浦賀城は山城ながら、後北条水軍の拠点でもありました。主郭があった場所からは、浦賀湾口部が見渡せます。



衣笠城は後北条氏と戦った三浦氏の本拠地でした。



衣笠城登り口の大善寺は梅の花が咲いて良い感じ。



昼食は海鮮丼に、一文字ぐるぐるの小鉢+味噌汁。



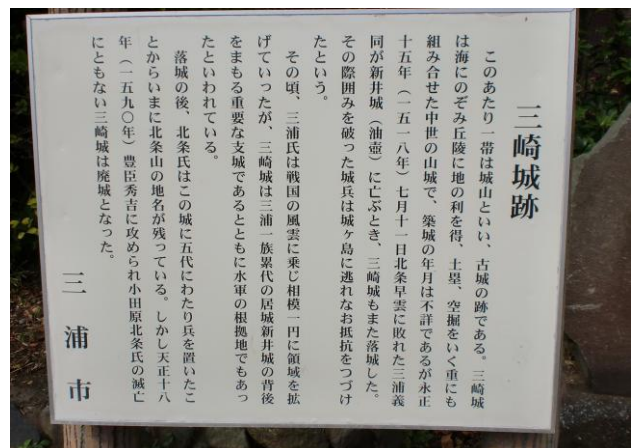
北条早雲と激しい攻防の場となった新井城址を一周。



新井城城主、三浦義同(導寸)の墓もここ油壺に。



後北条氏の特徴ある遺構が広範囲に残る三崎城址。



三崎城跡

このあたり一帯は城山といひ、古城の跡である。三崎城は海にのぞみ丘陵に地の利を得、土塁、空堀をいく重にも組み合せた中世の山城で、築城の年月は不詳であるが永正十五年(一五二八年)七月十一日北条早雲に敗れた三浦義同が新井城(油壺)にじぶとき、三崎城もまた落城した。その際囲みを破った城兵は城ヶ島に逃れなお抵抗をつづけたという。

その頃、三浦氏は戦国の風雲に乗り相模一門に領城を振上げていったが、三崎城は三浦一族累代の居城新井城の背後をまもる重要な支城であるとともに水軍の根拠地でもあったといわれている。

落城の後、北条氏はこの城に五代にわたり兵を置いたことからいまだ北条山の地名が残っている。しかし天正十八年(一五九〇年)豊臣秀吉に攻められ小田原北条氏の滅亡とともに三崎城は廃城となった。

三浦市